刺しす!　　世相を切る

# 参院選挙について　その２　「こんな奴を議員にするな・・・」

参院選が告示され、与党・野党から沢山の立候補者が名を連ねている。が、その主張を見れば、優勢に胡坐をかく与党は、自惚れ一辺倒の自画自賛ばかり。一方の分裂野党は、与党のやることにケチをつけるだけのアラ探し党。一体、国会議員の役割を何と考えているのかとついついうたがってしまう。いずれの党の候補者も、その主張を見れば、党利・党略と、選挙地盤を意識した地元還元のスローガンばかりが目につく。何の議員立法もしないで、空論ばかりの主張では行政を司る官公庁はついてこない。結局は、天下り天国の霞ヶ関の作成した計画、それに従う与党の議員、そして、与党の揚げ足取りだけが仕事のようなことをしている野党議員。国民からすれば、彼らのしていることが、どれだけ国の抱えている問題、国際問題、安全保障の問題、経済問題、国民の教育問題、さらには、日本の文化・伝統の問題などを考えているのか疑ってしまう。もともと、法治国家である日本は、国会・議会は、三権分立の建前からすれば、立法府のはずだ。なのに、議員のバッジをつけている間、その任期中に一つの議員立法もしない議員ばかりだ。彼らは、議員手当てをなんだと思い、どんな使い方をしているのだろうか？　国が議員に支払う手当は、議員だけしかできない議員立法をするための、準備金のはずだ。行政権を持っている官公庁にたいして、将来の日本のあるべき姿を描き、それに向けての、現在の憲法での問題点をあからさまにし、行政府を指導していくための法律を作ることができるのが国会だ。であるから、与党にしても、また、野党にしても、国政にかかわる現状の問題点を解決していくために、どんな法案を作れば良いのかを議論してもらいたい。国際問題にしても、また、国内問題にしても、旧態全とした日本国憲法の見直しが必要であるのは明白だ。変りつつある世界情勢の中では、日本の果すべき役割、あるべき姿、そして、日本をどのような国にしてゆくのか、こうした問題は多々あるはずだ。是非、こうした問題を真剣に議論してもらいたい。

逆に、そうした意識もない党は、ただの駄党だ。国会では、表面上の上滑りの人気取りのような議論ばかり。質問事項は予め文書で提出して、これに、官公庁が答案を作り、それを朗読するだけの大臣。読み上げるだけなら中学生でもできる、しかも、間違って読んだりするなど全く言外だ。国会議員になっても、村会議員が偉くなったような気分で、憲法すら読んでいない議員など、うんざりする。全く、議員の質を問いたくなる。とりわけ

・国会での議員の役割に、何の問題意識も持たない世襲議員たち
・議決する時の人数合わせのために国会議員になっている、マスコミ出身のタレント議員
・地元の利益ばかりの党利・党略に走る、地方の出身議員
・主義主張は理想論ばかりで、国全体のことを考えられない、利己主義的な議員

こんな議員は、国にとっては、“百害在って一利なし。”であるのは例を挙げればいとまがない。こうした人を議員としては選ぶべきではないと、言いたい。

野党にしても、今の状態は、民主主義という妄想に対する言い訳のために自民党に利用されているだけだ。あるいは。そういう自民党に利用されるようなことばかりしかしていない、税金を無駄遣いしている同じ穴の狢（ムジナ）的な存在だ。与党に、「駄党など、敵ではない。」と言われない様にしてもらいたい。

結局は、国民はもっと頭を冷やして、各候補者の主張ではなく、ビジョンをよく理解し、そして、判断をして、選択すべきだ、と思うが、与党も、野党も、立候補者は、何ら具体的な問題解

決の手段を掲げず、ましてや、議員立法について研究しているような人は皆無だ。議員立法には、与党も、野党もない、将来の国の姿を憂える人なら誰でもできる筈だ。

2019.07.20